

日本史研究推進委員会

共同研究「神奈川における西洋文明との 出会い」経過報告

金井高校 矢野 慎 一

本年度の日本史研究推進委員会は、昨年まで三年間研究を継続してきたテーマ「宗教と民衆」を終了し、新テーマ「神奈川における西洋文明との出会い」に基づき研究活動を行った。

【月例会】

月例会は、今年は二月を除き毎月実施された。主として推進委員の勤務校を会場として行われたが、四月と七月には神奈川県立歴史博物館で、十一月には、小田原市郷土文化館で開催することができた。それぞれ研究会終了後、常設展示を見学したり、館収蔵品を、学芸員による解説を受けながら見学することができた。また、三年目となった世界史研究推進委員会との合同研究会は、六月に鎌倉学園高校で開催された。折良く建長寺境内遺跡の発掘調査が実施されており、発掘現場を見学することができた。その後、石井喬先生（元逗子高校）から鎌倉についての講演があった。

【研究発表会】

十月の研究発表会では、新谷桂（港南台高校）が『食パン あんパン 乾パン』あゝの三四郎も食べた？「横浜のパン」の歩み』で、明治維新以降の日本の近代化について論じた。「軍隊とパン」では、千葉県佐倉の木村屋、兵庫県篠山の小西パンを実際に訪れて調査した成果を発表している。「横浜とパン」では、「日本紳士録」などの

資料により、横浜のパン屋の盛衰について検討した。ついで武井勝（大井高校）が「神奈川における西洋式築城との出会い」神奈川台場と小田原台場を中心に』で、江戸幕末期の海防政策、特に東京湾と相模湾において、西洋式築城法が実際の台場建設にどのように導入されていたかを論じた。

三月の研究発表会（兼関東歴史教育研究協議会神奈川大会）では、風間洋（鎌倉学園高校）が『鎌倉府体制下の武家社会』室町期都市鎌倉における武家奉公の諸相』で、授業などでも取り上げられることの少ない室町期の鎌倉の実態について、鎌倉府で行われた年中行事や武家文書などから迫った。ついで高橋正一郎（相模原高校）が『近代と民衆』日本史授業における素材を中心に』において、近世から近代の一揆・民衆運動と民衆文化について、「傘連判」と「浮世絵」を紹介しつつ、授業での展開を考察した。

【夏季巡検】

恒例となった夏季巡検は八月に実施され、多くの参加者があった。見学地は、小田原市の宝金剛寺とその裏山にある「建武古碑」（相模板碑）、松田町の松田山、西明寺跡、からさわ瓦窯跡、寒田神社、山北町の洒水の滝などである。松田山からは足柄平野全体を展望しながら、一九四五年敗戦間際の本土決戦陣地構築の状況について、香川芳文（高浜高校）から説明を受けた。

最後になったが、月例会の会場を提供していただいた各高校名・各施設名をあげて感謝したい。開催順に、神奈川県立歴史博物館・横浜英和女学院高校・鎌倉学園高校・相模原高校・港南台高校・小田原市郷土文化館・厚木高校・高浜高校・金井高校である。今後とも御理解と御協力を賜りたい。